

湘南医療大学

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 リハビリテーション学科

名 前 中村 壽志

作成日 2023 年 9 月 26 日

1. 教育の責任

湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻において、主として専門科目の科目を担当している。以下、「担当科目一覧」に記載する。また、授業の補助として関わることもある。以下、「補助教員担当一覧」に記載する。授業以外には、担任制およびチューター制にて学生を担当しており、「担任制度およびチューター制度の担当一覧」に記載する。その他、補習として行っている臨床実習対策演習と国家試験対策演習を行っており、「臨床実習/国家試験対策の担当一覧」に記載する。委員会業務なども担当したものを「委員会/係の担当一覧」に記載する。

担当科目一覧

科目名	対象学年	種別など	受講者数	担当コマ数
理学療法教養基礎	1 年	必修・専門	40	1
見学実習	1 年	必修・専門	40	3
運動療法学概論	1 年	必修・専門	40	7
運動機能学	2 年	必修・専門基礎	40	2
運動学演習	2 年	必修・専門基礎	40	5
代謝系理学療法学	3 年	必修・専門	40	4
徒手療法	3 年	選択・専門	40	3
理学療法特論Ⅰ	3 年	必修・専門	40	2
評価学実習	3 年	必修・専門	40	3
総合臨床実習Ⅰ	4 年	必修・専門	40	3
総合臨床実習Ⅱ	4 年	必修・専門	40	3
チーム医療論	4 年	必修・総合教育	200	1
理学療法特論Ⅱ	4 年	必修・専門	40	1

補助教員担当一覧

科目名	対象学年	補助内容	補助コマ数
解剖学実習	2 年生	授業補助	30
検査測定学演習	2 年生	授業補助/実技試験補助	15
運動器系検査測定学	2 年生	授業補助/実技試験補助	15
神経系理学療法学	2 年生	実技試験補助	1
老年期理学療法学	3 年生	授業補助	2
日常生活活動学演習	3 年生	実技試験補助	1

担任制度およびチューター制度の担当一覧

担任制度/チューター制度	担当期	入学年度	担当人数
副担任	2 期生	2016 年度	40
副担任	5 期生	2019 年度	40
チューター	7 期生	2021 年度	8
チューターリーダー	9 期生	2023 年度	40

臨床実習/国家試験対策の担当一覧

臨床実習/国家試験対策	担当期	内容	担当コマ数
臨床実習対策	2 期生	実技指導、ケーススタディ	15
臨床実習対策	5 期生	実技指導、ケーススタディ、ソーシャルスキル指導	30
国家試験対策	1 期生	模擬試験監督、特別講義、学習支援	30
国家試験対策	2 期生	年間計画作成、模擬試験分析・振り返り補助、特別講義、小テスト問題作成、学習支援	45
国家試験対策	3 期生		
国家試験対策	4 期生		
国家試験対策	5 期生	年間計画作成、模擬試験分析・振り返り補助、夏期セミナー、特別講義、小テスト問題作成、学習支援	60
国家試験対策	6 期生		

委員会/系の担当一覧

委員会/係	担当年度	担当内容
図書委員	2015 年度-2019 年度	
学生支援委員	2019 年度-2023 年度	
6S 委員	2016 年度-2021 年度	
専攻会議書記係	2015 年度-2023 年度	

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

理学療法士は、医学の進歩に伴い最新の知識が必要となるため生涯にかけて学習を続ける必要がある。そのため、その根幹となる学習意欲を培うことが重要であると考え。その中でも特に意識をしていることが「学習することを楽しむ」ということである。楽しく学習をするのではなく、学習という行為自体を楽しむことで、生涯学習の礎を築くことができると考える。以下に内容をまとめる。

- 学習テーマへの興味: 学習内容が興味を引くものであれば好奇心を刺激して学習意欲を向上させる。そのために講義の展開や学習教材(配布資料、視聴覚教材、クリッカー試験など)を工夫する。
- アクティビティの導入: 聴講するだけの講義にならないよう実技的な演習を取り入れたり、質問法やシンクペア&シェアなどを活用したりして、学習者が学習内容への能動的な働きかけを促通する。
- 即時的なフィードバック: 学習の進捗状況と成果を可視化することで、学習意欲を高めるため、小テストは即時フィードバックにて解説している。

学習行為を楽しむことは、学習者が内発的な動機づけを持ち、持続的な学習習慣を築く鍵である。教育者と学習者は、楽しさを育み、知識と技術を深めるために協同で取り組む必要がある。そして、その学習行為が楽しいとき、その知識や技術は一層意味深くなり、継続的な学習行動に繋がると考えている。

2) 理念をもつに至った背景

学習意欲とは、「学習者が意思をもって、自発的に学習活動を求めようとする心の働き」であり、「学びたい」という気持ちと「目標を達成するために粘り強く学んでいこう」という気持ちが含まれている。こうした学習意欲は、“欲求・動機”レベルと“学習行動”レベルと“認知・感情”レベルからなり、教員はこれらに働きかける必要がある。学習行動が起こるプロセスは、知的好奇心や有能感・向社会性への欲求といった欲求・動機が具体的な行動を起こし、その結果として学習行動に楽しさや充実感を感じ、そのような体験を振り返ることで認知・感情から新たな学習意欲へと繋がる循環であると言われている。このように学習行動のプロセスを知することは教育に関わる上で重要なことであり、学習者に個々の対応をする際にもこうしたプロセスの循環を意識して導くことで多様性に適応できると考える。「教育のパラドックス」で言われているように、このようにすれば善いという教育はないのが現状である。そのため、私の教育の定義は、学習者が個々の価値観から能動的な学習行動を起こせるように学習意欲を促進することである。こうした考えは、インクルーシブ教育にも通ずる部分があると感じている。

3. 教育の方法・戦略

学習効率の高いとされているアクティブ・リコール(Practice test)を授業内に多く取り入れ、能動的に記憶を想起することが多くなるような工夫をしている。

- オリエンテーションの動画配信: 科目の初回時にオリエンテーションを行うが、科目を履修する際の意欲に繋がると考え、事前にオリエンテーション動画の配信を行っている。
- 授業資料の共有: 授業資料は印刷して配布しているが、その他に学習者が持参した

PC やタブレットやスマートフォンで授業時間のみ資料が共有できるようにした。学習環境として、席が後ろの方で見えにくいなどから学習意欲が低下することを防ぐ狙いがある。また、手元にあるデバイスでピンチアウトをすることにより資料の拡大ができるため、視力低下により見えにくい学生への配慮としても使用している。

- 反転授業:講義前に読んできてほしい教科書や資料について、動画配信することで予習の実施率を上昇させるために行っている。また、講義本編の序盤内容を配信することで、講義の時間につまずきやすいポイントを学習者のペースに合わせて教示することができるため、そのような方法も実施している。
- クリッカーテスト:Socrative を使用することでインターネット環境にアクセスできるデバイスからクリッカーテストを実施することができる。小テストとして行っており、1 問 1 問学生が回答した後すぐに解答を確認し解説するという手続きで実施している。また、正答率も即時にフィードバックされるため間違えてしまった際の再学習の指標として活用している。
- シンクペア&シェアや質問法:Slido を使用することでインターネット環境にアクセスできるデバイスから質問への解答を無記名ですることができる。シンクペア&シェアや質問法は非常に取り入れやすいアクティブラーニングの形式だが、講義中に発言しにくく意見を集約するのに時間がかかることが欠点であった。Slido をしようすることで無記名という点で発言しやすく、入力された意見をスクリーンに投影することで簡単かつ短い時間で行うことができるため意見の集約に必要な以上の時間を要しない。このため以前より講義の中でこのような方法が多く展開できるようになった。
- ジグソー法:知識構成型ジグソー法を用いてグループワークを行うことにより、能動的な学習が得られる。班になってそれぞれの班で別々の課題や問題に対して学習し、その後他の班の人との組み合わせになるような班になって学習した内容を教え合うという形式で、学習のピラミッドの概念でいう“教える”という行為をするため学習の定着率が高い方法であると考えている。
- 臨床実習の研究:早期臨床体験での主観的健康観を調査することで、学外で行う見学実習という授業が心身の健康状態に悪影響を及ぼさないことを確認した。
- 国家試験対策の研究:知識構成型ジグソー法と学習の動機づけの特徴について調査し、成績層毎に特徴的な変化があることを確認した。
- 年次目標の設定:ディプロマ・ポリシーを会得するために理学療法学専攻 9 期生は独自の年次目標を立てて、各学生がディプロマ・ポリシーに向かって内省しやすいようにした。また、年次目標はチューター教員が年に 2 回の面談の際に確認することで適切にフィードバックを行なっている。これは、休・退学者を減らす狙いもあり、理学療法士になることへの動機を確認することで学習意欲の低下を防いでいる。
- ホームルームでの学習支援:理学療法学専攻 9 期生は、効率的な学習方法や学習スタイルの確認、学習に影響する生活習慣などの学習支援を行っている。

- 個別指導:理学療法学専攻 9 期生は、対面や学内メールや manaba での個別指導に加え、LINE WORKS を活用することで、学生が教員へアクセスしやすい環境を提供している。また、教員からの発信は、事務的な連絡や学力低迷者への注意といった内容だけでなく、学習成果向上や善い行いについてのフィードバックも積極的に行っており、理学療法士に必要なソーシャルスキル・知識・技術を教員と学生の協同で培っていくことを重要視している。

4. 学習成果

教育評価のプロセスである「診断的評価」「形成的評価」「総括的評価」に分けて記載する。

- 診断的評価:学習の前提となる学力や体験の有無について把握する評価であり、事前に関連科目の評定などから確認している。また、講義の序盤に質問法を用いて実施している。
- 形成的評価:教育した内容がどの程度身に付いているか確認する評価であり、Socrative を活用した小テストで確認している。一定のレベル以上というよりは、クラスの理解水準から逸脱しないように正答率を確認してもらいながら実施している。
- 総括的評価:科目終了時に学習の達成状況を確認する評価であり、定期試験やレポート、または課題発表で確認している。定期試験は、国家試験を見据えた出題内容としており、レポートや課題発表はルーブリック評価を使って実施している。

担当している科目の授業評価は毎年平均以上を推移しており、「意欲的に受講したか」や「教員の熱意が感じられたか」の項目で高値となることが多い。

国家試験の合格率は、1 期生は 91.7%(全国平均 92.8%)、2 期生 92.1%(全国平均 93.2%)、3 期生 94.4%(全国平均 86.4%)、4 期生 100%(全国平均 88.1%)、5 期生 100%(全国平均 94.9%)となっており、直近 3 年は全国平均を上回る合格率であり、直近 2 年は受験生全員が合格している。2 年連続で受験生全員が合格した理学療法士養成校は 264 校中 29 校であり、そのうち 4 年制大学は 16 校であった。

教育に関する論文 2 編執筆と教育に関する学会発表で奨励賞を受賞した。

5. 改善のための努力

学習者が良好な学習環境を用意する:日々進化する ICT 技術を活用したり、アクティブラーニングを講義の中に取り入れる工夫をしたりして、より効率的な学習が得られるよう日々研鑽する必要がある。

学習教材の開発とシラバスのブラッシュアップ:学習を進める中でつまづきやすいポイントがあり、そこに対して学習教材を開発したりシラバスをブラッシュアップしたりすることを毎年行っていくことで学習効果が高まると考える。

6. 今後の目標

長期目標としては、科目としての講義だけでなく大学生活全般も含めて“つまずきポイント”が存在するため、つまずきポイントに対するアルゴリズムを作成したい。今まで教員の経験に伴う勘で判断していた部分をシステムチックにしていくことで、学生個々の特性に目を向ける時間や労力が増やせると考えている。

短期目標は、担当する科目と国家試験対策においてつまずきポイントの列挙と改善に向けた対策・対応を毎年行っていく必要がある。また、国家試験対策については年間計画作成や模擬試験分析を担当し中核メンバーとして業務に関わっているため、3 年連続受験生全員合格を目標とする。

【添付資料】

資料1 湘南医療大学シラバス

資料2 専攻会議議事録

資料3 国家試験対策年間計画等の配布資料

資料4 授業評価アンケートの結果

資料5 manaba(配信動画・Socrative・Slido・授業資料共有)

資料6 PTOTST 養成施設教員等講習会資料

資料7 栃木県総合教育センター「学ぶ意欲をはぐくむ」

資料8 Improving students' learning with effective learning techniques. Psychological science, 2013

資料9 早期臨床体験における主観的健康感の変化. 専門リハビリ, 2020

資料10 知識構成型ジグソー法による学習と動機付けの変化. 理学療法科学, 2022